

1 目的

本校では、『つながり』を意識した実践を学校目標に掲げてきました。『つながり』は、児童と教職員、そして、保護者や地域との連携だけでなく、児童同士のつながり、上級生から下級生へのつながり、また、学習や行事等をつなぎ、児童個々の内面での成長などに関わる言葉です。さらに『つながり』を継続的に意識させることで、綿々と続く学校の文化・伝統として引き継がれるものと考えています。

2 内容

(1) 児童個々の成長をつなぐ

ア 繰り返し学習

学力定着を図るために、読み・書き・計算は欠かせないもので、全教科の土台となります。週の計画に位置づけた朝学習（火曜：算数 木曜：国語）において、既習事項を確実に積み重ねるよう、児童の実態に合わせ、学年ごとに工夫して反復練習に力を注いでいます。また、各教科において、対話をつなぐ言葉かけ・働きかけを追求しています。

イ Q-U研修会

応用教育研究所の杉村秀充先生を招いた研修会では、Q-Uの結果から、児童一人一人の「困り感」や学級内の人間関係を把握し、具体的な支援方法や、学級全体でのルール作り、ソーシャルスキルの育成方法などを検討するなど、教職員同士で情報交換をして学び合うことができました。

(2) 心や命をつなぐ

ア キャリア教育（職業講話）

7月～11月には、6年生を対象に8日間に分けてキャリア教育に取り組みました。県内の企業や施設、地域のさまざまな仕事に従事している方を講師としてお招きし、働くことのやりがいや楽しさ、誇り、苦勞、喜び、大切にしていることなどについて講話や実演をしていただきました。児童からは、「ホテルでは多くの働く方が関わっているおかげで泊まることができることがわかった」「電車の運転士さんは、運転だけでなく、毎日多くの業務をこなしていることに驚いた」「おいしいお菓子を製造するために、多くの人の意見を聞いているとは知らなかった」などの感想が聞かれました。働く大人のリアルな姿を見聞きすることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。



キャリア教育「働く」を学ぶ

また、学習の発表の日には、働くことの意味について考え、今の自分を見つめ直し、今後の生き方について深く考える事の大切さについて発表することができました。

イ 人権教育

文字職人の杉浦誠司さんを講師に迎えて人権講演会を実施しました。杉浦さんからは、「勉強や運動、習い事などで、思うような成果が出せなかったときやうまくいかなかったとき、失敗したというネガティブな気持ちが自分の限界値をどんどん下げてしまう。そんな気持ちが続くと最後には、限界の存在にすら気付くことすらなくなってしまい、自らの成長を止めてしまうことになる。自分の限界を決めるのは自分自身。自分に負けそうなときもあるし、諦めたくなるときもある。「もう無理だ」と投げ捨てたくなるときもある。そんな時は、自分の持って生まれてきた可能性を信じて、挑戦し続けていってもらいたい」と自らの過去の経験になぞらえて語っていただきました。

辛い日々を過ごし、それを乗り越えてきた体験から、「君たちには限りない可能性



文字職人の杉浦誠司さんのパフォーマンス

があり、決して自分で自分の可能性を奪ってはいけない」と、夢をもつことの素晴らしさ、皆とつながれば夢は必ず叶うなどの熱い思いを高学年の児童へ伝えていただきました。

最後に、児童に囲まれ「めっせ一字」を書いていただきました。児童の顔を一人一人見つめながら何を書こうかじっくりと考えられ、書き始められたら一気に流れるような筆さばきで、メッセージを書いてくださり、児童の心に思いが強く伝わる時間となりました。

<杉浦さんからの『夢めっせ一字』>

—自由— 未来には希望しかない 自分の可能性を信じて
自分の想いに まっすぐと向き合い 飛び出せ 世界に羽ばたけ

3 評価

今年度においては、市内の端末やシステムが換わり、本校においても授業や行事の在り方を様々に模索しながら、教職員内で知恵を出し合って教育活動を進めてきました。教職員も子どもたちも、ICT機器の扱いにも慣れ、ロイロノートやC a n v aなどのソフトにも親しみ、グループ活動や自らの考えを深める一助として積極的に活用しています。また、教職員同士で活用方法について話し合ったり、研修会を開いたり、児童一人一人の成長や効果的な活用方法につながるように日々研鑽を重ねています。

また、さまざまな「つなぐ」取組として、Q-Uの結果を受け二者懇談（教師と児童）を実施して児童理解に努めることで、交友関係の悩みを早期発見することができ、早期に対応することができました。また、地域人材を活用したキャリア教育（職業講話）や人権講演会の実施により、児童の心の成長だけでなく、それを支える教師の指導力を高めることにもつながりました。

4 課題

次年度も、安全で安心できる学校づくりを目指す中で、児童一人一人が多くの学びができるよう、教職員、保護者、そして地域と連携・協働しながら、児童の実態に合った教育活動を模索していきたいと考えます。